

～じゅうにんという～

第二回も前回到引き続き【感覚】のお話です **感覚統合理論における3原則**



原則1
感覚は脳の栄養素

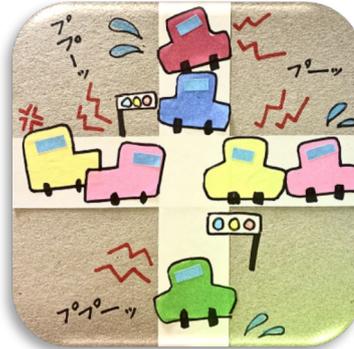
原則2
感覚入力には交通整理が重要

原則3
感覚統合は積み木を積み上げるように発達する

感覚入力には交通整理が必要

5月号では我々人間には、7つの感覚（視覚、嗅覚、味覚、聴覚、触覚、前庭覚、固有感覚）があり、それらの感覚（栄養）をもとに脳が発達することをご紹介しました。感覚は脳の栄養素であり、豊かな感覚は脳の発達に重要な役割を果たしています。しかし、量が多ければ良いというわけではありません。

次に重要となるのは **交通整理**、です。つまり、感覚を感じ（取り込み）、脳に届けるまでの道が混雑することなく整理されている必要があります。



私たちが騒がしいレストランや街中、電車の中でも会話がなげうまができるのかを考えてみましょう。

たくさん声（音の刺激）の中から、私たちは自然に会話している相手の声に耳を傾け、それ以外の声や音は自然のうちに遮断して聞こえないようにしているはず。これは、必要な情報と必要ではない情報を交通整理できている結果だということです。

私たちの中でも、騒がしい環境でも気にならない人と騒がしい環境は苦手な人がいると思います。世間一般的には「健常者」とされている人の中でも許容量（交通整理）に差があることを常に意識したいですね。学校生活を考えても教員の話聞く時に、必要でない声や音を耳から拾ってしまい、集中しにくい子どもがいると思います。「話を聞きなさい」と指導するのではなく、交通整理を助ける方法を考えていきたいですね。

ちょこっと補足～触覚について～

※詳しくは前号紹介の②の書籍をご覧ください！！

触覚は、触ったり、触られたりすることで感じる感覚で、皮膚を通して感じます。針でチクッと刺された痛み、水を触った時の温度、毛布の柔らかさなどを感じる感覚です。触覚には主に、4つの働きがあります。

- ①防衛するはたらき
- ②識別するはたらき
- ③情緒を安定させるはたらき
- ④ボディイメージの発達

